

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念があり見やすい所に掲げている。	○	理念を職員一人一人が、日々実践できているかどうか振り返る必要がある。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、日々実践に向けて取り組んでいる。	○	日頃から、理念の実践に向けて取り組んで行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	法人の理念・ホームの理念は入居者および家族にも説明しており、入り口にも法人とホームの理念が掲げられてある。地域の方二人が第三者委員に選任されており、地域になじんでおり理念の理解を深める活動に取り組んでいる。	○	今後、家族や来園された方に分かりやすく説明し、理解していただく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣への散歩等外出の際は地域の方に挨拶し、交流を図っている。それによって、近所の方がお茶を飲みに来園されたり、ご自分で作ったパンや手芸作品を届けに来園されてお付き合いが継続している。	○	より一層地域との交流を深める為に、継続維持していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の中高校、地域のボランティアの受け入れや避難訓練の際、自治会役員にご協力いただいている。	○	今後は、地域行事の参加を目指し、地域教育機関との交流を続けていく。

グループホームぼうやま敬老園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	うえだ敬老園として、高齢者ボランティアの実施や健康相談等おこなっている。	○	事業所独自としては難しいが、うえだ敬老園の傘下の一員として今後も協力して取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を理解している。	○	今後も自己評価及び外部評価を活かし、より良いサービスが提供できるよう取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、利用者や活動報告を毎回行っている。	○	今後も、運営推進会議での意見をサービス向上に努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	敬老園として、常に市の担当者と連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後も敬老園の一事業所として、市の担当者と連携を図り、サービスの質の向上に図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ファイルを整備し、誰もが閲覧できるようになっている。	○	実際にはなかなか活用できておらず、認識を高める為にも勉強会などの開催が必要だと思われる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ファイルを整備し、誰もが閲覧できるようになっている。	○	実際にはなかなか活用できておらず、認識を高める為にも勉強会などの開催が必要だと思われる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明等を詳しく行い、納得した上で契約の手続きを行っている。	○	今後も利用者や家族が不安を生じぬよう、十分な説明を行い、納得した上で手続きを進めていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中で、意見や不満等を聞いている。また、傾聴ボランティアが週に1度来園されており、職員とは違った立場で不安等を聞いている。	○	今後も利用者の意見や不満等を聞き、運営に反映させていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、また電話にて利用者の状態を伝えている。また、年4回の広報を発行し暮らしぶりを伝えている。(金銭管理は、立て替え金の為毎月の請求書をもって報告としている。)	○	今後も継続として報告を行っていききたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関脇に設置している。	○	意見箱を活用していただくと共に、意見や不満等を表せるような信頼関係を引き続き築いていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見を聞き、サービス会議等ではかつて実現に努めている。	○	今後も続けていきたい。

グループホームぼうやま敬老園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の個別に対応できるよう、出来る限り勤務の調整に努めている。	○	最小限の人員配置に為、無理が生じた場合には、うえだ敬老園へ応援要請をしていく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の際は研修期間を設け、安定したサービスを提供できるようにしている。	○	働きやすい職場作りを行い、離職を最小限に抑え、馴染みの職員による支援を受けられるようつとめていく。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるようにしている。また、法人内で段階別の研修を実施している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業に参加し、他の同業者との交流をもち相互訪問等の活動を実施している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士の親睦を図り、ストレスの軽減を図っている。	○	事業所としても、今後もストレスを軽減する取り組みをしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の努力や目標設定の実績を評価し、向上心を持って働けるような配慮をしている。	○	事業所としても、今後も各職員が向上心をもって働けるよう配慮していく。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス開始以前にご本人と面接を実施し、本人自身の訴えや願いをよく聞き、受けとめるよう努めている。	○	具体的な不安や願いと共に、表情や態度から感じ取れることにもきちんと注意していくよう努める。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス開始以前に家族と面接を実施し、家族の訴えや願いをよく聞き、受けとめるよう努めている。	○	今後も、安心して利用していただけるよう努めていく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階では、まず本人・家族の話をしっかり聞いて、内容によっては他のサービス活用を勧めることも考え対応している。	○	今後も、相談者の現状や思いに配慮し、真摯な対応を心掛けていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学は積極的に受け入れている。また、居室に馴染みのある家具や使用していた食器類を持参していただいている。	○	今後も本人が、生活の場として馴染みやすいような配慮・取り組みをその都度検討する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の風習や、調理においての知識を教えていただいたり、それらを引き出すような問いかけをし、本人から学んだり支えあう関係を築いている。	○	今後も、本人から学んだり支えあう関係を築いていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子や変化などは、家族に報告し共有して、支援の方法、対応について意見を交換している。	○	今後も家族と積極的に交流を持ち、本人にとってよりよい支援を模索していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係について、本人・家族双方の意見を把握したうえで、より良い関係構築に配慮している。行事等には積極的に家族の参加を促し、本人と楽しい時間を過ごせるよう計画している。	○	今後も、本人と家族がよりよい関係を築いていけるよう、双方が求める時間の共有や適度な距離の置き方に配慮していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族と会ったり馴染みの場所に出かける機会を作っている。	○	今後も馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士が、交流が持てるよう支援し、また、状態に合わせて調理、盛り付け、洗濯たたみなどをして支え合えるように努めている。	○	今後も利用者同士が係わり合い支え合って生活していけるように支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談があれば対応する。終了する際に利用者や家族にその旨をきちんと伝えるよう心掛けている。	○	特に関わりが必要とされる利用者や家族に対してはこちらからの、働きかけも検討する。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの希望・意向を大事にし、その人のペースで極力生活できるよう支援している。	○	今後も一人一人の思いを大事にし、その人のペースで生活できるよう支援していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して個々の生活歴を把握している。	○	今後も継続して生活歴を把握に努めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	月に一度サービス会議を実施し、その人その人に合う暮らし方とそのための支援を検討している。	○	今後も情報の共有を徹底し、一人ひとりの現状把握に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心として、本人・家族・関係者の希望や意見を反映した介護計画を作成している。	○	今後も、本人のよりよい生活のため、広く希望や意見を取り入れた介護計画の作成に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じて見直しを行っている。また、変化が生じた時には家族や訪問看護などと話し合い、現状に即した計画の立て直しを行っている。	○	今後も、臨機応変な介護計画の作成、対応に努める。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事も個別の介護記録とサービス日課表に残し、その場にいなかった職員にも情報が伝わるように努めている。また、それを元にケアを実践し介護計画の見直しに活かしている。	○	今後も内容の濃い個別記録の作成に努め、実践や介護計画の見直しに活かしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方の方への受診付き添いや入院時の対応などに柔軟に対応している。	○	今後も要望や必要性に応じて柔軟な支援をしていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	時間をかけ話を聞いてくれる人を必要とする利用者がいるため、傾聴ボランティアを受け入れている。また、朗読ボランティアを毎週受け入れている。	○	今後、利用者のニーズを確かめつつボランティアの内容も具体的に検討したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前までは他サービスを利用する利用者がいたが、状況の変化に伴い停止している。現状では利用者の中に他サービス利用の必要性を把握していないが、必要があると判断できる場合には検討していく。	○	必要があると判断できる場合は検討していく。

グループホームぼうやま敬老園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では利用者の中に必要性を見出していないが、今後必要があると判断できる場合は検討していく。	○	地域包括支援センターとのつながりを維持しつつ、必要があると判断できる場合は検討していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を受け、かかりつけ医の同意を得て医療を受けている。また、各医療機関からの情報は保管し、個別記録と共に共有している。	○	ターミナル期も考慮し、かかりつけ医との情報共有・連携に一層努めたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師と関係を築き連携している。	○	よりきめ細やかなケア実践の為、医師との情報交換に努めていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと医療連携を結び、定期的な訪問によって各利用者の日常の健康管理に努めている。医療的な支援が必要となった際は、密に連絡をとり指示を仰いでいる。	○	今後も介護・看護で情報を共有しながら、些細な体調の変化も見逃さぬよう健康管理に努めていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された際には、医療関係者と情報交換し、早期に退院できるように努めている。	○	入院された際には、利用者本人の不安・状態等を考え、早期退院に向けて、医療機関と連携をしていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医・家族・看護師及び職員間で話し合い、今後の方針を決めている。	○	各々の価値観からの隔たりもあるが、ご本人にとっての最善策を講じていきたい。

グループホームぼうやま敬老園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医や看護師に相談し、緊急時の対応等をあらかじめ聞き、職員にも伝え準備をしている。	○	いざ緊急となった場合、マニュアルや指示通りの動きが出来るか課題となっている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住む際には、これまでの情報を詳しく伝え、共有し、本人へのダメージを防ぐよう努めている。	○	今後も、移り住むダメージを最小限に抑えられるよう情報提供等を積極的に行っていく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を大切にした対応を行っている。また、個人情報の取り扱いにも十分注意し、外部に漏れないようにしている。	○	今後も、一人ひとりの尊厳を大切にしていける。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の会話の中から本人の思いを聞くように努めている。また、本人に合わせた説明を行い、小さなことでも自己決定ができるよう支援している。	○	今後も、本人の思いや自己決定を大切にし、納得して生活ができるよう支援していく。

グループホームぼうやま敬老園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、出来る限り利用者の希望にあわせて過ごせるよう支援している。	○	今後も、一人ひとりのペースを大事にし、希望にあわせた支援をしていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が着たい衣服を選べるよう支援したり、行事・外出の際、おしゃれをする等している。また、理美容も利用者の望む店がある場合は、個別に支援している。	○	今後も、その人らしい身だしなみができるよう支援していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒になって準備・食事・後片付けを行っている。利用者によってはミキサーをかけたり、細かくするなどの工夫もしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望に添って、お酒、おやつ等は、対応し支援している。	○	今後も、利用者の希望に合わせ、日常的に楽しめるよう支援していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じて、排泄状況を記録し、パターンをつかんでいる。また、それにあわせて、声掛け、誘導を実施している。	○	今後も、継続して排泄のパターンを把握し、声掛け、誘導を実施していく。

グループホームぼうやま敬老園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	可能な限り本人の希望やペースにあわせて入浴ができるよう支援している。利用者の希望により週3回の入浴にも対応している。また、必要な際はその都度、入浴の見直しや変更を行っている。	○	今後も利用者の希望に合わせ、日常的に楽しめるよう支援していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの休息時間を把握し、安心して眠れるよう支援している。	○	今後も継続して、安心して気持ちよく休息したり、眠る事が出来るよう環境を整えていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみ事を日々の生活の中で取り入れられるよう支援している。また、食事の盛り付け、食器拭き、洗濯物たたみ等、様々な場面において、それぞれが、役割をもっている。	○	今後も、継続して家事や楽しみ事を日々の生活の中で取り入れるよう支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者の金銭管理の力量を検討し、外出の際に使える様に家族とも相談し取り組んでいる。所持できない方でも、買い物に出かけた際に立替金での会計支援を行なっている。	○	今後も一人ひとりの金銭管理の力量に応じて、お金を所持したり支援できるよう支援していく。また、買い物の機会を増やす事で各利用者の希望に添えるよう努める。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に対して、出来るだけ外出するように支援している。	○	今後も、希望にあわせて外出できる機会を作れるよう支援していく。また、些細な会話や行動からでも利用者の希望を把握できるように努める。

グループホームぼうやま敬老園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があれば事前に計画し、外出の機会を作っている。	○	今後も、利用者の希望を大切にし、実現できるよう計画、支援していく。また、家族とも相談し、取組んでいく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望があれば、電話を貸し出している。また、個々に家族や知人等に手紙を出す支援をしている。	○	今後も利用者の希望に合わせ、電話や手紙の支援をしていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間に制限はなく、いつでも訪問できる環境ある。また、訪問時はゆっくりと過ごせるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の日中の状態を把握しながら玄関を開放したり、施錠したりしている。	○	常時開放する事が望ましいが、危険回避のため、家族の了解のもと施錠している。

グループホームぼうやま敬老園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して利用者全員に目が届く場所で見守りを行い、常に利用者の所在を把握し、安全にすごせるよう支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものは、注意を払って保管している。	○	今後も、状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急マニュアルがあり読み合わせている。また、事故報告があった場合、全職員で情報を共有し、再発防止に心掛けている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事業所研修にて他事業所との合同の勉強会を実施しており、参加している。	○	実際に急変や事故が発生した時に、スタッフの身体が自然に動くかは疑問であり、常日頃からの危機管理意識を保っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度自治会に協力していただき、避難訓練を実施している。	○	例えば、真夜中に災害等が起きた場合、地域の方がどのタイミングで協力していただけるのかが不明でもあり、普段からのコミュニケーション作りに努めたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒等の危険、高齢のため何があってもおかしくないこと等について、面会時に話しをしている。	○	出来る限り抑圧感のない自由な暮らしが遅れるよう努めていきたい。

グループホームぼうやま敬老園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変発見時には、情報を共有し速やかに対応している。また、場合によっては、訪問看護や医師に指示をあおいでいる。	○	今後も、小さな変化にも速やかに対応し、早期発見に努めていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬の処方箋を把握し、いつでも目が通せる状態にしてある。変化がある時は、家族を通じて主治医に伝わるように取り計らっている。	○	服薬の変更がある場合は、その都度用法・容量を把握し、症状の変化を確認していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	冷たい牛乳、水分の促しや、歩行訓練などを実施している。	○	今後も、便秘の予防の工夫に取り組んでいく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者に出来る事はやってもらい、保清が不十分な所は介助し、清潔を保っている。週2回の義歯洗浄も行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分摂取量は把握しており、一日を通して確保できるようにしている。		

グループホームぼうやま敬老園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	敬老園には感染予防対策委員会が設置しており、情報として流され実行している。	○	マニュアルの設置だけでなく読み合わせも行っていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具はきちんと洗浄し、食材は新鮮で安全な物を使用し、食中毒予防に努めている。布巾は毎日熱湯消毒し、まな板は適宜漂白している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム内は家庭的であり、玄関や庭には花や野菜が植えてある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品を飾り、季節感をとりいれ、照明・材質も温かみを感じられる物を使用している。	○	利用者にとって居心地良く過ごせるような環境を今後も整えていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身がくつろげる場所を確保している。		

グループホームぼうやま敬老園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力もあり、利用者それぞれにあった居室作りが来ている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに換気を行い、空調も温度設定しエアコン等で対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すりを備え付けるなど安全な生活が送れるよう配慮している。	○	安全かつ出来るだけ自立した生活を送れるよう工夫していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ等の張り紙をして分かりやすくし、混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には物干しやミニ花壇等もあり、利用者それぞれが役割を持って参加している。	○	今後も庭等の活用の工夫をしたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない

グループホームぼうやま敬老園

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)